



環境福祉学会

News Letter

ニュースレター October 2012

22

目次

第8回年次大会の開催概要	1
公開セミナー①	2
公開セミナー②	3
一般研究発表プログラム	4
組織及び役員一覧・事務局より	4

環境福祉学会 事務局 株式会社環境新聞社事業部内
〒160-0004 東京都新宿区四谷3-1-3 第1富澤ビル
TEL. 03-3359-5349 / FAX. 03-3359-7250
http://www.kankyofukushi.jp/
E-mail: info@kankyofukushi.jp

第8回年次大会は、11/18（日）岡山・倉敷で開催！ 大会テーマ：少子高齢社会の環境福祉

環境福祉学会 第8回年次大会概要

開催日：平成24年11月18日（日）

会場：川崎医療福祉大学（倉敷市松島288）

プログラム：

9：50～12：10 〈一般研究発表〉（第1～第3分科会）

〈公開シンポジウム〉

13：00～13：15 開会挨拶 江草安彦 学会会長（社会福祉法人旭川荘名誉理事長）

来賓祝辞 岡山県知事 倉敷市長

13：15～14：00 特別講演「ミャンマーの環境と福祉の今、日本に期待すること」
ミヤツ・カラヤ（日本経済大学准教授・国際交流センター次長）

14：00～14：50 基調講演「ポスト成長時代の社会構想
—少子高齢社会における環境福祉—
広井良典 千葉大学法経学部教授

15：00～16：50 パネルディスカッション

テーマ「少子高齢社会の環境福祉」

コーディネーター：

炭谷 茂 学会副会長（恩賜財団済生会理事長）

パネリスト：

木田 薫（NPO「ソーシャルデザインセンター淡路」代表）

小川雅由（NPO「こども環境活動支援協会」(LEAF) 事務局長）

井上正一（ボランティアグループ「木こりの会」代表）

16：50 閉会挨拶

17：00～18：30 懇親会

参加費 大会参加費（予稿集、弁当代を含む）

5,000円（学生3,000円）

公開シンポジウムについては無料

（予稿集は500円で頒布）

懇親会参加費 4,000円（学生2,000円）

後援団体 環境省、厚生労働省、岡山県、倉敷市、
山陽新聞社、環境新聞社

新たな「子どもへのまなざし」の創設を目指して 震災で喪失体験に遭った子どもを中長期的にケア するための「グリーンケア事業」について

朝日新聞厚生文化事業団 事業部長
福田 年之 氏



福田 年之 氏

朝日新聞の厚生文化事業団では、現在子ども、障害のある人、高齢者という3本のテーマに絞りまして、社会福祉の事業をいろいろと展開しております。例えば私自身はこの朝日新聞の厚生文化事業団に入りましてもう25年になりますが、ライフワークとしまして子供たちのキャンプをずっと続けてきました。そこに来る子どもたちというのは例えば自閉症といった障害のある子どもたち、児童養護施設という社会的養護の子どもたちや大人の人たち、あるいは肢体不自由な人、知的障害、あるいは大人の人ですが精神障害の方々、こういう方々とキャンプをしたこともあります。近年では認知症の高齢者のキャンプをしたりとさまざまな方々と野外、自然を通じて、その活動を通じて学び合い、勉強をするという活動を学生時代から30年以上やっております。

事業自体はキャンプばかりをやっているわけではなく、そういった子供たち、障害のある人たちのキャンプもたくさんある仕事あるうちの1つです。もちろん高齢の方々、最近では虐待を受けた子供たち、あるいは虐待をしてしまう親たちのための活動や支援も行っております。

もう1つ大きなテーマがありまして、それは大きな災害時の募金受付と救援指導です。テレビや新聞にかかわらずマスコミ各社は大きな災害がありますと募金窓口を開設します。朝日新聞の募金の窓口は私たち朝日新聞厚生文化事業団です。阪神大震災のときもそうでしたが、今回の東日本大震災のときは震災のあった当日から、約1年間大車輪のような働きをうちの若い子たちを中心に行っていました。ほとんどずっと休みない日々が続いているような状況です。

今回、東日本大震災の募金の受付でどういった活動をしたかについて、ごく簡単にご紹介します。1つが預り金というかたちで受けております。これはよくテレビでは「皆さまからいただいた寄附は日本赤十字社を通じて」というくだりでご紹介されていますが、国民各人の募金はほとんどすべてと言ってもいいと思いますが、この1番の預り金という形態で日本赤十字社、あるいは自治体、現地の災害対策本部に送られるというお金になっております。2番の「救援募金」は、おそらくマスコミ各社の厚生文化事業団のような団体がほとんどの行っていないユニークな活動だと思えます。より速く、直接被災された方々にお金が届くようにしてくれないかというご希望が多いので、その

声にお応えするために2番の救援募金というものを別立てで立てました。これは直接募金をお送りいただく方々の意志を確認できる分について、私たちが救援事業について使わせていただきますということを確認した上で、使わせていただくようにしています。

2番目の救援募金は、「グリーンケア」の事業を司るお金ということになってきます。「意思をご確認できたものについて、私どもの事業で使わせていただきます」ということを断った上でやっております。このグリーンケア事業は、大切な人を亡くした子ども、これは両親とは限りません。おじいさん、おばあさん、あるいは兄弟、友だちといったように大切な人を亡くした子どもたちが本当にたくさんいます。その子どもたちのための事業です。

具体的事業では、グリーンセンターを宮城県でこの7月にスタートします。先ほどいただいたお金をこちらに投入し、場所と人を確保します。各県の窓口と連携を取りながら、グリーンケアのファシリテーターと呼ばれる専門家の養成をし、そして実践を行います。日常的に相談ができたり、日常的に学習支援ができたり、あるいは月に1回はお楽しみ会ができる、1年に3回の長い休みのときにはキャンプなどの活動をする、そしてそれを地域と日常の活動とのつなげるというセンターを目指しています。今回の震災の場所だけではなく、岩手県、福島県でも次々に拠点を作っていきたいと思っておりますが、先ほども申し上げましたように、こういった機関が日本の中に存在しません。本来的な窓口は児童相談所というところですが、ご存じのように、児童相談所はいま虐待問題でパンク状態です。したがって震災に遭った方、あるいはそこで過酷な経験をしたからといって、そのことについてきちんと見てくれるわけではありません。そういう機関は日本にはありません。そういう漏れたところをカバーするために、このようなグリーンセンターを作りたいと思っております。被災地だけではなく、できれば全国にあるということが好ましいと思っております。自殺される方、交通事故に遭われる方など親をなくす子どもたちがたくさんいるはずで、そういう人たちを網羅できるような活動にしていきたいと思っております。

「被災地におけるグリーンカーテンと トマト栽培援助」

環境福祉学会監事・獨協医科大学名誉教授
永井 伸一 氏



永井 伸一 氏

最初は寺田理事からのご紹介で、大槌町の大槌保育園へ、2番目に JICA の海外青年協力隊岩手支部の小田島さんのご紹介で山田町の第6仮設団地という60所帯の仮設住宅に行ってきました。今回のプロジェクトは、環境福祉学会と私が副会長をやっている世界子孫代理人会が主催となり、銀座と渋谷のミツバチプロジェクト、獨協中学高等学校、横浜のカナリヤ幼稚園の園長さんの援助と、花澤理事のご指導により、達成することができました。

工程ですが、5月29日に鹿沼の容器や土、肥料を売っている土屋さんで、資材等を調達し、5月30日に岩手入りし、青年隊の人と打ち合わせをして遠野で宿泊。朝早く8時に大槌保育園に行き、3時までかかりゴーヤとトマトを設置しました。作業が3時に終わり、4時に山田地区の第6仮設団地に到着し、そこから約2時間、6時過ぎまでトマトとゴーヤの設置を行いました。そこからはもう帰れませんので、終わって宿泊所に着いたのが9時ぐらいです。私は75歳なのですが、よくもったと思って感心しております。

今回行った大槌保育園は、津波で全部つぶれましたので、ユニセフが遠く離れた高台のところに新たに2階建てのプレハブを作りました。最初は園児がいる部屋にグリーンカーテンを作る予定でしたが、食堂をやらしてもらわないと食事ができないということで、ここを集中的にやりました。

ゴーヤのグリーンカーテンというのはどこでもやっていて、珍しくありません。しかし、我々の方法というのは誰でもできて、6Lの土でできるという特徴があります。いわゆる水を上からやるのではなく、下から吸い上げようというものです。吸い上げた中に肥料を入れておいて、その肥料に水が触れますと、肥料が溶け出すようになっていきます。

おそらくこれだけの本数をやりますと、室内温度は少なくとも10度～15度は下がると思っていますので、冷蔵庫は使えるのではないかと思います。

その後、我々が行った山田第6仮設団地は、60棟ほどびっしりと並んでいて、そこ多くの方が生活しています。ここにグリーンカーテンがありますが、役場がプランターとゴーヤの種を持って来てこれを作ったのですが、60軒あって、芽が出たのは1軒だけでした。いま、グリーンカーテンと言っていますが、どこを見てもその程度なのです。

最初は暑いだろうからというのでゴーヤをたくさん持って行ったのですが、トマトができると聞い

たら、9割の人がトマトがいいと言われました。しかし苗を持って行ってなかったので、急きょ青年隊の人にトマトの苗の苗を買いに行ってもらいました。ゴーヤは3本だけで、あとは全部トマトでした。

最初は2人の責任者だけが出てくる予定だったのですが、ぞろぞろと集まってきて、これを始めたら紐を水に付けたり、我々が何も言わないのに手伝ってくださって、箱の組み立てが始まりました。非常に退屈しているというか、どうにもならない状態のようでした。多くの方が手伝ってくれましたので、2時間ぐらい早くできましたが、非常に期待されていました。

今まで青年隊の方が月に2回ぐらいこの第6団地にキュウリを持って行ったりしていたのですが、黙って受け取るだけで話し合いは全然なかったのですが、今回は、どうしてこんなに会話があったのだろうと思ったそうです。それは、やはり新しいことがあって、食べられるものを自分たちでできるということだと思います。いままで老人ホームで3年間くらいやっていましたが、トマトを栽培することによって、老人間の会話、それから我々との会話のものがすごく増えていきました。そういうことで癒しになりますので、この方法は被災地にさうとう役立つのではないかと思います。

実際に現地に行ってみないと実態はわかりません。今回、行くということがいかに大切だということがよく分かりまし、非常に良かったと感じました。これからまた何回か行かなければいけません。現地の小田島さんがときどき行って、写真を撮って送ってくれるということですが、いつ来てくれるのかと言われていまして、1回ぐらいは行かなければいけないと思っています。

昨年からは掛川で、産業として500箱ぐらい使ってフルーツトマトの栽培が始まっていて、いま出荷しようというところなんです。普通の栽培でやる場合よりも非常に甘いものできて、しかも人件費が4分の1で済むという効果が出ています。今後は、産業用として普及すると思っておりますし、大きな目標は、これを家庭、学校、老人ホーム、幼稚園といったところでの導入を進めていくことです。



環境福祉学会

第8回年次大会一般研究発表プログラム

第1分科会 環境福祉の理論的研究

- ①少子高齢社会における医療・福祉環境と家族
- ②身体障害者の外食における人的環境に関する研究
- ③岡山市京山地区におけるESDによる環境福祉の取組み
- ④楽しく、美味しく 助け合う社会を目指そう
- ⑤工場地帯と研究所ビルにおける緑のカーテンによる省エネ効果
- ⑥チェルノブイリ原発事故の社会的影響の分析に関する研究
- ⑦環境保全意識の向上に効果的な情報発信とは何か

第2分科会 環境福祉の地域づくりと技術開発

- ①バリアフリーでこそ人は転倒する
- ②木酢油を用いた水溶性塗料の開発
- ③森林セラピーの基地づくり
- ④廃棄制服素材を活用した園芸、緑化資材の研究
- ⑤「世界の宝石・瀬戸内海」を磨く
- ⑥「バイオマスタウン真庭」の取組み
- ⑦寝室の壁材を青森ヒバに変えることによる居住性の変化

第3分科会 障害者・高齢者に関わる環境福祉の実践

- ①障がい者千人雇用—農業分野へのアプローチ
- ②福祉と農業による地域の活性化をめざす
- ③紙おむつリサイクルを活用して地域の見守り社会を構築する
- ④旭川荘における環境福祉の取組み
- ⑤福祉がつなぐ 創業・雇用ネットワーク
- ⑥「ときわヴィレッジ」の自然が育むもの
- ⑦生徒と共に行う園芸の福祉的活動と社会的活動
- ⑧障害者の長期雇用支援システムの一考察～北海道江別市の事例から～

■ 環境福祉学会組織及び役員一覧

会 長	長：江草 安彦	社会福祉法人旭川荘名誉理事長／川崎医療福祉大学名誉学長
副 会 長	長：伊藤 達雄	名古屋産業大学名誉学長／鈴鹿医療科学大学客員教授
	潮谷 義子	日本社会事業大学理事長／前熊本県知事
	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長／元環境事務次官
理 事	事：泉谷 直木	アサヒグループホールディングス株式会社代表取締役社長
	植田 和弘	京都大学大学院経済学研究科教授
	長田 逸平	クライシスマネジメント協議会理事長
	寺田 清美	東京成徳短期大学教授
	土井 康晴	生活福祉研究機構専務理事
	波田 幸夫	環境新聞社代表取締役社長
	萩原 元昭	群馬大学名誉教授
	花澤 義和	NPO法人エコリンク21環境国際総合機構理事長
	藤田 八暉	久留米大学経済社会研究所所長
	松寿 庶	社会福祉法人全国社会福祉協議会理事
	安川 緑	金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域准教授
監 事	事：永井 伸一	獨協医科大学名誉教授
	伊澤 敏彦	NPO法人環境資源開発研究所所長
事 務 局 長	長：小峰 且也	環境新聞社専務取締役
事 務 局	局：酒井 剛	環境新聞社事業部部长

事務局 だより

環境と福祉の融合を目指して8年前に創設された環境福祉学会ですが、今年の大会は第1回目の開催地である岡山県倉敷市で2回目の開催となります。

今年のテーマは、「少子高齢社会の環境福祉」となっており、一般研究発表も過去最多の21題の発表が予定されています。

▼秋紅葉の深まる倉敷は観光スポットも数多く、倉敷川沿いには、江戸・明治時代に作られた土蔵を改装して開館した「倉敷民藝館」や「倉敷考古館」など伝統的な建物が並ぶ情緒豊かな町並みが形作られています。また、「大原美術館」や「倉敷館」のような洋風建築物がうまく溶け込んでいる様子もこの境界の特徴の一つです。ぜひ、会員の皆様のご参加をお待ちしております。